

オンライン研修「多様性が生きることばの教育」

研修 A 文化間移動する高校生の日本語指導 第 1 回研修会の報告

テーマ:進路選択で重視される「日本語の力」—日本語能力試験へのチャレンジ—

概要

研修実施日:2024年6月9日
参加者:135名
アンケート回収数:96件(70.5%)

研修資料について

教育・研修を目的とした場で参照資料としてのご提示に留めてください。部分的な切り取りや、加工はお控えください。また、本事業資料である旨を明示してご利用ください。

研修のねらいと目標※

※文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」(日本語教育学会 2019)に基づき設定

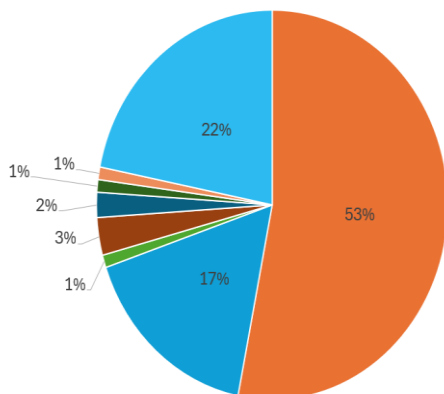
資質・能力	具体的目標
・捉える力 (社会的背景の理解)	ク 子どもがどのような自己像を描き、どのように社会参加し自己実現ができるかを、社会の変化と共に展望することができる。
・育む力 (日本語・教科の力の育成)	シ 子どものニーズ、能力、学習経験に応じて個別の指導計画を作成し、日本語指導等を実施し、評価を行うことができる。

プログラム

- ①講義 1 「特別の教育課程」の編成による日本語指導
—日本語能力試験(JLPT)の学習を「個別の指導計画」に位置付ける—
齋藤ひろみ(東京学芸大学 教授)
- ②講義 2 「進路選択の幅を広げる日本語の力を育む」
—日本語能力試験(JLPT)対策を運用力向上のための学習に—
市瀬智紀(宮城教育大学 教授)
- ③報告 「特別の教育課程」としての日本語指導実施校より
「特別の教育課程」の日本語
高島 みゆき (東京都立砂川高等学校 定時制課程 教諭)
綾野 舞 (同 日本語指導支援員)
- ④交流

アンケートより

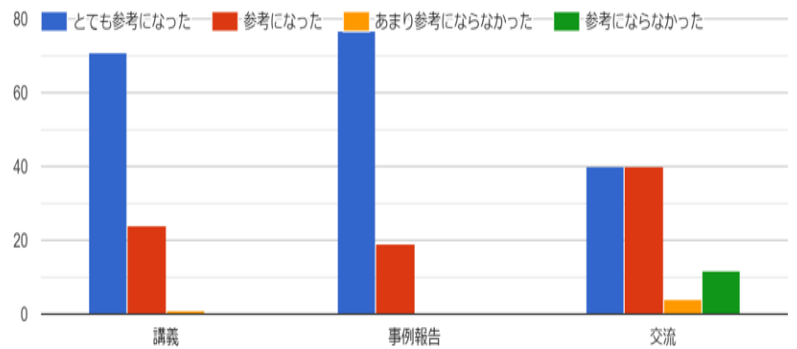
<参加者の子どもの日本語教育への関わり>



- 日本語指導・日本語学習支援を行っている
- 教科指導・教科学習支援を行っている
- 生活指導を行っている
- 進路指導・キャリア支援を行っている
- 直接指導はしていないが、指導・支援のコーディネートを行っている
- メンタル、生活面のカウンセリングなどを行っている
- 学校の管理、学校教員の指導を行っている
- その他

高校の日本語指導が JLPT 対策になっていないかと危惧していたのですが、今回のように、JLPT 対策も取り入れた包括的な日本語指導について高校でも考えてもらえるようになるのではないかと期待できるようになった。

<参考になったか(満足度)>



事例報告から得られたこと…やはり現場の教員のみなさんへの日本語指導支援の必要性をミクロからマクロにいたるまで伝え、理解を促す努力が必要だということです。私は日本語指導員として学校の中に入れるわけなので、より促しやすい立場にあると自覚できました。うまく伝える、つなげる、理解してもらうための促しを工夫する努力をしたいと思います。すごく疲れてしまったり、泣きそうになったりすることはありますが…。そういう点で、勇気ももらえました。

参加者の声



学校で行われている実践や現状の課題について知ることができました。特に日本語能力試験とその学習について、学校でどのような取り組みが行われているのか知りました。また、ブレイクアウトルームでは日本語指導をしている先生方がたくさんいらっしゃったので、それぞれの地域・学校での実状を聞くことができ、大変勉強になりました。

事前に配布された動画や学芸大のサイトが充実しており、そこから派生して様々な知識を得ることができた。／高校、それ以前の日本語教育について知ることができた。／高校の先生方が日本語教育・支援のどのような点に関心があり、何を知りたいのか等をチャット欄から垣間見ることができた。

研修企画者より

講義1では、日本語指導において、言語知識・スキルにのみに意識を向けるのではなく、また資格取得支援に終わることなく、日本語を使って自身の道を切り拓く若者の教育として具現化することの重要性を考えた。具体的には、JLPTの言語知識(文字・語彙、文法)の学習をプログラムBの日本語基礎として、またそれらを運用する読解・聴解の学習をプログラムC(技能別)やプログラムD(日本語プロジェクト)に位置づけて実施することを提案した。講義2では、JLPT2級以上の学習を教科指導とどう結び付けたらよいかを中心に、『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』や昨年報告のあった高等学校での実践事例に言及しながら、具体的な活用方法について提案を行った。

『特別の教育課程』の実施校として、東京都立砂川高等学校(定時制過程)より、特別の教育課程導入の経緯や日本語指導の目標と指導の内容等が具体的な報告があった。生徒の個に合わせた指導として、教科のプリントや課題など教科支援、学校文書内容の理解、ゲーム・絵本・漫画・歌を翻訳する活動の実際の様子が写真と共に紹介された。JLPTに関しては、合格した場合増単位と認定している(JLPT3級:1単位 2級:2単位 1級:3単位)。また、進路のイメージについて話す活動などを取り入れながら、積極的に日本語学習の意欲を高めている様子は参加者にとって大きな刺激と積極的な取組を後押しするものであった。